

高度医療機関の脆弱性に対する安全性自動点検システム

国際医療リスクマネジメント学会理事長
日本医療安全学会理事長
酒井 亮二

高度病院は、人と機械の相互作用、人と人の相互作用、そして高度医療技術からなる高度な複雑性のゆえに、脆弱が高く、極めてもろくはかないシステムです。私どもの世界学会が数年前にロンドンで開催した国際医療安全教育セミナーにおいて、ヒューマン・ファクターの世界の第 1 人者である James Reason 名誉教授(英国マンチェスター大学)は、「航空機では人—機械システムが中心であるうえ、IT によりシステムリスクに対する自動安全性が高まっている。医療機関は航空機よりはるかにハイリスクなシステムである」と申ししていました。

銀行や原発といった巨大なリスクを発散するシステムでは、システムリスクに対するストレス・テストが実施されます。過去数年間にわたり世界学会を通じて、病院ストレステストという新しい考え方をオープンディスカッショングループの場で検討してまいりました。

これらの活動を通じて、今、「高度医療機関という複雑系システムの脆弱性に対する自動安全システムを航空機操縦システムのように構築できれば、病院の安全性が高まり、患者と家族から安心していただける」と考えます。たとえば、医療行為毎にリスクを洗い出し、それぞれに対する標準的なリスク低減策を設け、そのチェックリストを作成する。その上で、日々の診療ごとにこのチェックリストで点検する、という新たな作業工程です。院内委員会へ事前に提出する治療許可届の有無のチェックへも応用できるものです。しかしながら、臨床現場における日々の安全点検にはかなり膨大な労力が必要です。そこで、携帯端末を含む IT 技術で自動チェックリストを開発し、甚大エラーに対する自動警報を医療の末端端末と中枢端末へ流すことで、事故の未然防止力は高まります。

高度医療機関という巨大な複雑システムのリスクのすべてを人が確実に監視することは不可能であり、安全に関する自動点検システムの開発・導入は安全で安心な医療文化の構築をする際の強力な補助手段になる、と確信しました。